



# ろうさい連携だより

2023.5  
第 **40** 号

病院の理念

患者さんの立場に立った、満足と納得をして頂ける医療の実践

## 特集

### 当院の専門センター紹介 Vol.5 糖尿病代謝センター



当院は、急性期入院加療・救急・がん診療を三本柱とした診療を登録医の先生を中心とした連携によって展開しています。

独立行政法人 労働者健康安全機構 **東北労災病院**

- 地域医療支援病院
- 地域がん診療連携拠点病院
- 災害拠点病院
- 臨床研修指定病院
- 日本医療機能評価機構認定病院

## 目次

- ・ P1 診療科新体制のご案内
- ・ P2 最新型のMRI装置導入について
- ・ P3-5 糖尿病代謝センター紹介
- ・ P6 地域医療連携センターから
- ・ P7 令和5年5月外来担当医表

## ■ ■ 消化器内科新体制のご案内

消化器内科部長

小林 智夫

平素より地域医療連携登録医の先生方、施設の皆様には当科に患者さんをご紹介いただきましてありがとうございます。

幅広くより多くの患者さんの診療ができるように、令和5年4月に胃腸内科と肝臓科は統合して消化器内科となります。当科にご紹介いただきました患者さんは、診断後に各専門担当医が診療を担当致します。当科の各専門領域をご紹介します。

上部消化管領域では、内視鏡検査による疾患の診断を通じて、上部消化管の良性・悪性疾患や他疾患の合併症の治療を多数施行しております。内視鏡による悪性腫瘍治療は、練度の高い専門医が安全性に留意しながら施行しています。手術適応の場合には消化器外科と密に連携して治療を進めています。

下部消化管領域でも同様に内視鏡検査を通じて良性・悪性疾患の別なく診断・治療を行っております。炎症性腸疾患(IBD)センターでは内科と外科が連携して診療しています。当科の炎症性腸疾患に対する生物学的製剤治療導入数は宮城県内でも有数です。感染症などの副作用管理が必要な高度の専門性を要する治療を経験豊富な専門医が行っています。

肝臓領域では、抗ウイルス薬の進歩でB型・C型肝炎患者様の病状進行抑制・治癒が確立しました。飲酒・肥満等による代謝性肝疾患が増加しており、肝生検で診断して治療を行っています。各肝疾患を背景とした肝硬変では現在でも肝癌発症の危険性が高く、ラジオ波焼灼術・肝動脈塞栓術・分子標的薬・免疫チェックポイント阻害薬で治療しています。

胆膵領域は4月から専門担当医が代わります。現在までの内視鏡による胆嚢・総胆管結石・胆膵系悪性腫瘍による閉塞性黄疸に対する減黄処置に加えて、超音波内視鏡下穿刺吸引法(EUS-FNA)による診断も積極的に行う体制になります。良性・悪性を問わず、診断・治療の選択肢を拡げた診療が可能となります。

登録医の先生方・登録施設の皆様からご紹介いただきました患者さんには、上記のような専門性をもって診療に努めますので、今後とも当科へのご支援を宜しくお願い致します。

## 最新型のMRI装置導入について

中央放射線部長

今野清志

日頃から、登録医の先生方には放射線科検査をご依頼いただきありがとうございます。

今回、長年使用して参りましたMRI装置を今年3月に更新し、シーメンス社製MAGNETOM Altea 1.5テスラを導入致しました。最新装置の特長をいくつかご紹介したいと思います。

1つ目の特長は70cmワイドボア157cmショートガントリーを採用していることです。これまでのガントリー開口径より約10cm広くなりましたので、狭い空間が苦手な方や体の大きな方、また円背の強い方でも安心して楽に検査を受けていただけます。また整形外科領域の肩関節や肘関節などの検査において、目的部位をガントリーの中心付近で撮像できることにより、歪みの少ない高品質な画像が得られます。

2つ目の特長は装置本体から完全に取り外すことができる着脱寝台Dockable Tableを採用していることです。車イスやストレッチャーで検査に来られる方は前室で寝台に乗り降りすることができますので、検査を受けられる方の負担も減り、より安全に検査に臨むことができます。また検査中に気分が悪くなったり急変したりした場合など、即座に寝台を切り離し前室まで運び出せますので、高磁場環境外での安全な処置が可能になります。

3つ目の特長は高速撮像技術を搭載していることです。Parallel Imaging・Simultaneous Multi-Slice(SMS)・Compressed Sensing(CS)を統合的に組み合わせた高速撮像パッケージである「Turbo Suite」によりルーチン検査全般の撮像時間が短縮しました。検査部位や検査目的に応じて2D・3D撮像どちらにも適応でき、従来と比べて30~50%の時間短縮を実現しています。特に痛みの強い方にとってこれまでのMRI検査は時間の長い苦痛を伴う検査でしたし、検査が終了したとしても痛みの影響で体動が生じモーションアーチファクトで画質の低下した画像しか得られませんでした。また長時間の体位保持が困難な症状を有する患者様や高齢者、小児に対してもMRI検査は負担の大きい検査でした。このような方にとって検査時間短縮は大きなメリットになり、MRI検査の適応が広がると考えています。

4つ目の特長は数多くの画質向上技術を搭載していることです。BioMatrix CoilShimは、ヘッドネックコイルの中にシムコイルを組み込むことで、頸部の局所シミング精度を高め、被検者の体形によらず、安定した脂肪抑制画像が得られる技術です。多断面同時励起&収集技術Simultaneous Multi-Slice(SMS)は従来以上の撮像時間の短縮や薄いスライス厚での撮像



など空間分解能を向上させる技術です。これらに代表される様々な画質向上技術を組み合わせ、従来のMRI装置では得ることのできなかった高画質なMRI画像を提供します。

以上4つの特長をご紹介いたしました。このMRI装置を最大限に活用し、中央放射線部スタッフ一同地域医療に貢献できるよう努力していきたいと考えておりますので、先生方からのMRI検査のご紹介を頂けますようお願い申し上げます。



### 糖尿病代謝センター

糖尿病代謝内科部長 鵜田 藍

日頃より当院診療につき大変お世話になっております。  
今回は東北労災病院糖尿病代謝センターを紹介させていただきます。

#### 【実績 実患者数】

直近3年の当科患者実数は下記の通りです。

2021年度：1928人(外来) 363人(入院)

2020年度：1672人(外来) 343人(入院)

2019年度：2003人(外来) 380人(入院)

2020年度はコロナ禍の影響を受け患者数が減少しましたが、2021年度には回復傾向になっております。

#### 【外来診療】

外来ではコロナ禍で普及した電話診療を1日2～3件行うほか、フットケア外来や腎症進展予防外来など、合併症進行予防を目指した特殊外来も開設しております。

スクリーニングのため無散瞳下の眼底カメラを外来で実施し、有所見の場合や自覚症状のある場合など必要時には近隣もしくは院内の眼科へ紹介させていただいております。

特に初回指摘の糖尿病患者様には眼底写真を供覧いただき眼科診察の必要性を説明することで定期的な眼底検査につなげるよう促します。

様々な理由で入院が難しいケースも多く、外来インスリン導入や血糖持続モニタリングなどを駆使しコントロール改善を目指します。持続的な血糖変動を「見える」ようにすることは、無自覚低血糖の発見や食事内容の振り返りに非常に有用と考えられます。

#### 【入院診療】

当科は21床の病床をうけ持っており、この数の多さは糖尿病科としては県内有数です。

糖尿病、低血糖症、脂質異常症、肥満症の診療を主に行っており、予定入院のみでなく緊急入院にも対応しています。

連携医療機関からの紹介は当日予約なしでも受け入れ可能で、紹介すべきか迷われるケースがございましたらお気軽にご相談ください。

転院やレスパイト入院にも可能な限り対応しますのであわせてご検討いただけますと幸いです。

当院の特色ともいえる糖尿病教室は毎日開催しており、糖尿病科以外の入院患者様でも興味のある内容を選んで自由にご参加いただけます。

講師は糖尿病科医師、腎臓内科医師、歯科衛生士、管理栄養士、薬剤師、糖尿病療養指導士など、交代で担当し、幅広いテーマを扱うことで患者様からも好評です。

平均在院日数は病型に関わらず、糖尿病教育入院で10～14日間です。

合併症精査に特化した2泊3日の短期入院もご案内しております。

体重を減らす目的や、在宅や施設入所など介護環境の調整などに時間を要する場合には1～2ヶ月の入院をされる患者さまもいらっしゃいます。

個別対応しますので、入院期間含めご相談ください。

インスリンポンプ治療については最新機種770Gを導入して以降、症例が増えました。

導入自体は2泊3日ほどで可能ですが、操作になれるまでの1週間、入院継続希望の場合には、個別に対応しております。

救急疾患では糖尿病性ケトアシドーシス、ケトーシス、高血糖高浸透圧症候群、低血糖昏睡、感染症罹患時などのシックデイに対応します。

治療調整、術前血糖コントロール、検診精査、合併症精査目的の入院も多いです。

最近では非糖尿病の肥満者における減量目的の入院が多くなりました。

外来でも減量に対応しますが、入院の方が効果が高いため二次性肥満のスクリーニングやメディカルチェック、肥満外科手術への橋渡しなど、状況に応じて対応します。

2022年肥満外科手術に関する保険適応の改定と、肥満学会ガイドラインの改定がありました。2型糖尿病においては適応が変更となり、希望時には手術適応有無判断を含めご相談いただければ治療方針を提案させていただきます。

当院の平均ではおおむね7～10日に1kgほど体重が減りますが、全例で運動療法を併用するため、内臓脂肪優位の減量が得られております。

肥満者の増加から術前血糖コントロールだけでなく整形外科疾患や消化器外科術前の減量目的入院も増加が見込まれます。

## 【所属スタッフ】

スタッフについては日本糖尿病学会認定の糖尿病専門医4名(うち内分泌代謝領域指導医1名、糖尿病学会指導医1名)、管理栄養士5名、糖尿病療養指導士14名(うち認定看護師1名、特定行為看護師1名)、フットケア有資格看護師5名が在籍しています。

院内外からの糖尿病研修を希望する若手医師や医学生の実習を受け入れ、人材育成を行っています。将来糖尿病を専門としない先生においても糖尿病患者に関わる機会が多いことから地域の診療レベル向上に少しでも貢献できればと思っています。

管理栄養士による栄養指導は、初診、再来問わず当日可能なことが多いです。1型糖尿病患者様を対象としたカーボカウント指導も実施しています。

従来のBMIに基づいた評価では見落とされてしまうサルコペニア肥満や慢性呼吸器疾患などの低栄養を伴う病態や慢性心不全などの浮腫性疾患が効率よくスクリーニングできる

INBODY®も当日可能です。患者様には体組成の測定結果に基づき食事指導を行うことで、食事療法への意欲が上がると好評をいただいております。

食生活は家庭ごと、個人ごとの差異が大きいため個別の対応はとても重要です。診察室で主治医に相談できない内容でも栄養指導の際にはお話しやすいといった声も聞かれます。

このように質の高い糖尿病診療を行うためには、多職種連携がかかせません。

多職種連携は治療のすべてにおいて有効ですが、特に糖尿病合併症の進展予防には必須と考えられます。

足潰瘍や足壊疽の処置、透析予防指導についても有資格の看護師が常時行っております。予約制となりますので、ご用命は連携センターまでお問い合わせいただけますと幸いです。

なお、フットケアについては進行した足病変だけでなく、巻き爪や胼胝などの比較的よくみられるトラブルにも対応しております。

処置を実際に行いながら患者様に指導しセルフケアの実践を促し、必要時には皮膚科へもコンサルトし、足切断などの重症合併症の予防をめざしています。

近年では加齢に伴う動脈硬化性疾患患者が増加し、下肢末梢動脈疾患(PAD)の症例にしばしば遭遇します。

糖尿病のみならず高血圧症や喫煙により動脈閉塞を来している場合にも血管エコーやABIなど有用な検査が当日に実施可能です。結果次第では造影CT、MRAなどの精密検査も行います。

ひとたび足病変を発症するとADLだけでなく生命予後も大きく悪化するため、その予防や早期対応に少しでもお役に立てると幸いです。

## 【糖尿病診療の今】

近年では糖尿病領域に限らず、医学研究から実臨床面での技術革新、最新知見の集積があり、数々のガイドラインやコンセンサスステートメントが発表されております。

欧米のガイドラインでは数年前から取り上げられてきた経済的、社会的背景を考慮した治療薬選択が最新版の日本の2型糖尿病治療アルゴリズムでも明記されました。

従来は病態や薬理作用に基づく分類が強調され、実臨床で治療方針を決める大切なポイントである経済的要素や実生活上の制約などについては記載が少ないとの指摘もありました。

糖尿病診療は代謝というきわめて個人差の大きいシステムの不具合に対してなされます。

治療を人生の一部として捉え、患者様の生活スタイルや背景に配慮する必要性が強調されたことは、病気だけをみては不十分であるというメッセージと考えられます。

スティグマの問題が取り上げられアドボカシー活動の重要性が改めて認識されるようになり、治療者側も患者との関係だけでなく、職場や学校、家庭など周囲の環境にも着目していく必要があると思います。



## 地域医療連携センターから

### 人事異動のお知らせ

採用 (令和5年4月1日付)	
第一関節外科部長	千葉 大 介
第二リハビリテーション科部長	安 達 理
消化器内科医師	佐藤 拓
消化器内科医師	菅原 優里
消化器内科医師	田中 裕
糖尿病・代謝内科医師	鈴木 令子
緩和ケア内科医師	珠蘭 其其格
呼吸器内科医師	鳴海 茜

採用 (令和5年4月1日付)	
リウマチ科医師	永井 泰地
内科専攻医師	伊藤 圭祐
内科専攻医師	渡部 康也
内科専攻医師	河野 雄一
内科専攻医師	大友 梓
内科専攻医師	佐藤 佳衣
内科専攻医師	鈴木 優樹
内科専攻医師	正岡 隼

退職 (令和4年3月31日付)	
肝臓科部長	阿部 直司
リハビリテーション科部長	小松 恒弘
副院長・泌尿器科部長	浪間 孝重
胃腸内科部長	清水 貴文
泌尿器科部長	梅本 秀俊
糖尿病・代謝内科部長	久野 春奈

退職 (令和4年3月31日付)	
内科専攻医師	丹野 唯人
内科専攻医師	永島 彩佳
内科専攻医師	松田 賢
整形外科専攻医師	深田 寛人
整形外科専攻医師	亀山 悠宇

### 月別紹介患者数

	紹介患者数(人)	逆紹介患者数(人)
令和4年11月	1,041	873
令和4年12月	945	855
令和5年1月	854	801
令和5年2月	823	876
令和5年3月	820	1,099

東北労災病院 外来診療担当表 (令和5年5月1日)

科/部門		曜日					特殊外来・各種教室等			
		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	名称	曜日 時間		
総合診療科		小山 二郎	小山 二郎	小山 二郎	小山 二郎	小山 二郎	完全予約制			
内科	消化器内科	胃腸内科	白木 学 齋藤 晃弘 渡部 康也	齋藤 紘樹 今成 賢士郎 伊藤 圭祐	小島 康弘 大矢内 幹/近藤 稷 半田 朋子	大矢内 幹 白木 学 菅原 優里	小島 康弘 近藤 稷 佐藤 拓	院外新患は毎週月・木・金曜日の午後(予約制)		
		内視鏡	上部	大矢内/近藤/半田	大矢内/近藤/半田	大矢内/近藤	山川/近藤/半田/大原(秀) 【第3週のみ】			大矢内 幹
			下部	小島 康弘	小島/白木	白木 学	小島 康弘			白木/半田
	肝臓科	小林 智夫 山川 暢	田中 裕 —	山川 暢 阿部 直司	小林 智夫 —	田中 裕 河野 雄一				
	腫瘍内科	森川 直人	—	佐藤 悠子	森川 直人	森川 直人				
	緩和ケア内科	珠蘭 其其格 11:00~12:00	小笠原 鉄郎 9:00~12:00	小笠原 鉄郎 11:00~12:00	珠蘭 其其格 9:00~12:00	小笠原 鉄郎 11:00~12:00				
	糖尿病・代謝内科	嶋田 藍(登録医新患)	熊谷 絵里(登録医新患)	中村 麻里(登録医新患)	熊谷 絵里(登録医新患)	嶋田 藍(登録医新患)				
	循環器内科	田中 光昭(新患) 高橋 貴久代(再来)	高橋 貴久代	宇塚 裕紀(新患) 田中 光昭(再来)	田中 光昭(新患) 宇塚 裕紀(再来)	東北大学医師(新患) 高橋 貴久代(再来)				
	高血圧内科	金野 敏	宗像 正徳	金野 敏	宗像 正徳	金野 敏				
	腎臓内科	—	神田 学	—	神田 学	神田 学	木曜日は院外新患のみ 完全予約制			
呼吸器内科	—	三浦 元彦	榊原 智博	田代 祐介	三浦 元彦	榊原 智博	喘息外来(予約制)	月 14:00~15:00		
	—	田代 祐介	大塚 竜也	中村 優	中村 優	大塚 竜也	重症喘息外来(予約制)	木 14:00~15:00		
	—	鳴海 茜	谷津 年保	阿部 武士	谷津 年保	阿部 武士	禁煙外来(完全予約制)	火 14:00~16:00		
	—	—	池田 大輝	—	大友 梓	—				
呼吸器外科	保坂 智子	—	—	—	保坂 智子					
心療内科	町田 貴胤 町田 知美	町田 貴胤 町田 知美	町田 貴胤 町田 知美	町田 貴胤 町田 知美	町田 貴胤 町田 知美	新患は火・水曜日のみ 完全予約制				
小児科	—	千葉 靖	千葉 靖	高柳 玲子	高柳 玲子	千葉 靖	午後診(すべて予約制) 乳児健診(及川): 月・木・金曜14:00~ 予防接種:火・木曜14:00~ 腎臓外来(千葉靖):木曜14:00~			
	—	高柳 玲子	沼田 美香	沼田 美香	及川 智子	沼田 美香				
	—	及川 智子	—	—	—	及川 智子				
外科	消化器外科	成島 陽一	消化器外科担当医(新患のみ)	松村 直樹 佐藤 馨	徳村 弘実 野村 良平	野村 良平 本山 一夫	ヘルニア外来:月・火・木・金 胆石外来:月・火・木・金 胃外科:金(受付14時まで) 大腸外科:水 ストーマ外来:火曜午後予約制			
	大腸肛門外科	—	高橋 賢一 羽根田 祥	—	—	—				
乳腺外科	本多 博	※本多 博(午後新患のみ)	—	千年 大勝(第1週) 吉田 清香(第2週以降)	(午前)本多 博 (午後)千年 大勝	※午後 新患のみで予約制				
整形外科	関節	井樋 栄二(午前のみ)	小河 裕明	小河 裕明	小河 裕明	井樋 栄二(10:00まで)				
		千葉 大介	奥野 洋史	千葉 大介	千葉 大介(午前のみ)	奥野 洋史				
		奥野 洋史(午前のみ)	品川 清嗣(午前のみ)	國井 知典	國井 知典(午前のみ)	品川 清嗣				
		國井 知典(午前のみ)	佐藤 佳衣(午前のみ)	鈴木 優樹(午前のみ)	小林 史恰(午前のみ)	信田 進吾(午前のみ)				
		品川 清嗣(午前のみ)	三浦慎次郎(午後のみ)	信田 進吾(午前のみ)	—	—				
脊椎	—	—	—	—	—					
	—	日下部 隆 松谷 重恒	—	日下部 隆 松谷 重恒	※①日下部 隆 ※②松谷 重恒	※①日下部隆 第2・4金曜 午後不在 ※②松谷重恒 第1・3金曜 午後不在				
脳神経外科	高橋 智子	高橋 智子	—	高橋 智子	高橋 智子					
皮膚科	谷田 宗男	谷田 宗男	谷田 宗男	秋野 萌子	谷田 宗男	※水曜受付10:00まで【手術日】 月・火・木午後検査(予約制)				
	瀬川 優里恵	秋野 萌子	瀬川 優里恵	秋野 萌子	秋野 萌子					
泌尿器科	櫻田 祐(新患) 阿部 優子	島谷 蘭子(新患) 荒川 洋介	島谷 蘭子(新患) 阿部 優子	荒川 洋介(新患) 櫻田 祐	荒川 洋介(新患) 阿部 優子	※外来新患完全予約制				
産婦人科	阿部 祐也	—	東北大学医師	阿部 祐也	—	※月・木・金曜日の午前のみ 完全予約制				
眼	植松 恵	植松 恵	植松 恵	植松 恵	植松 恵	※月曜日(受付10時まで) ※火・木曜日 手術日(受付10時まで) ※水・金曜日 午後検査(予約制)				
	山田 百合菜 東北大学医師(午前のみ)	山田 百合菜 —	山田 百合菜 —	山田 百合菜 —	山田 百合菜(午前のみ) —					
耳鼻咽喉科	渡邊 健一	渡邊 健一	渡邊 健一	渡邊 健一	渡邊 健一	手術日 月・水・金 再来予約制 舌下免疫療法:木曜午後 (完全予約制)				
	織田 潔	織田 潔	織田 潔	織田 潔	織田 潔					
	清水 佑一	清水 佑一	清水 佑一	清水 佑一	清水 佑一					
	小笠原 真理	小笠原 真理	小笠原 真理	小笠原 真理	小笠原 真理					
	佐藤 悠歩	佐藤 悠歩	佐藤 悠歩	佐藤 悠歩	佐藤 悠歩					
入間田 美保子	—	大山 健二	大山 健二	—						
リハビリ科	安達 理	原田 卓	※東北大学医師(第5を除く) 心リハ外来	安達 理	原田 卓	※外来院内紹介は午前のみ				
放射線治療科	田邊 隆哉	田邊 隆哉(新患)	田邊 隆哉	田邊 隆哉	田邊 隆哉(新患)	完全予約制				
リウマチ科	加藤 一郎	畠山 明	加藤 一郎	畠山 明	加藤 一郎	完全予約制(院内・院外)				
	—	加藤 一郎(新患) 永井 泰地	永井 泰地(新患)	永井 泰地	永井 泰地					
歯科	永井 浩美	永井 浩美	永井 浩美	永井 浩美	永井 浩美	完全予約制				
	塚田 甲	塚田 甲	塚田 甲	塚田 甲	塚田 甲					
がん看護外来	※予約枠:午後のみ(13時~16時)、午前:山内 佳恵(緩和ケア) オンコール対応(不在時は午後枠担当者へ)					・2022/9/5から運用開始 ・完全予約制 ・( )は担当看護師認定領域				
	濱中 直美(がん化学療法)	穴戸 理恵(乳がん)	板谷越惠子(がん化学療法)	山内 佳恵(緩和ケア)	伊藤 一美(がん性疼痛)					



独立行政法人 労働者健康安全機構 東北労災病院

〒981-8563 宮城県仙台市青葉区台原4-3-21

受付時間 8:15~11:00

代表電話 022-275-1111 代表FAX 022-275-4431

地域医療連携センター

直通電話 022-275-1467 直通FAX 0120-772-061